

(9) グループワークを通じた考察～訪問支援における事前準備の重要性と留意点～

事前準備はアウトリーチ活動において最も重要な支援過程の一つ
～支援事例の割合ではなく可能な限り支援対象者のニーズに合わせて導入を図る～

グループワークを通じて学ぶこと

①本人が受け入れ可能な枠組みづくり

⇒本人の同意を得るための丁寧な働きかけと確認(原則)
⇒本人の生活パターンや心理状態に配慮した面談設定(時間、形態等)
⇒過去の経緯と先の展開に配慮した無理のない目的の提示

⇒本人の同意を得るための丁寧な働きかけと確認(原則)
⇒本人の生活パターンや心理状態に配慮した面談設定(時間、形態等)
⇒過去の経緯と先の展開に配慮した無理のない目的の提示

②相対的に捉えた「関係性」の分析

⇒家族関係への配慮によって対立構図に巻き込まれない
⇒特に情報提供者(保護者)との関係性の把握
⇒学校等外部関係者との関係に配慮した方針の策定

⇒本人の同意を得るための丁寧な働きかけと確認(原則)
⇒本人の生活パターンや心理状態に配慮した面談設定(時間、形態等)
⇒過去の経緯と先の展開に配慮した無理のない目的の提示

③関係者の心情に配慮した「必要最小限」の問い

⇒「疑念」を抱かせる問いかけや一方的な「質問攻め」にならない
⇒保護者面談を数回に分けることで「見立て」の精度を上げる
⇒必要に応じたアセスメント訪問とリスクマネジメント

⇒本人の同意を得るための丁寧な働きかけと確認(原則)
⇒本人の生活パターンや心理状態に配慮した面談設定(時間、形態等)
⇒過去の経緯と先の展開に配慮した無理のない目的の提示

詳細な情報が必要だけど最初からすべてを把握しようと思うと関係が崩れてしまうよ!

(10) 多重した困難を有する当事者(保護者)とアウトリーチの支援事例
事例割愛(事例を通じた解説)

訪問後の影響を考えない安易な訪問によって支援対象者本人の警戒感や抵抗感を強めたり、家族との関係性を崩すようなことがないようにしよう!

(11) 好ましい関係性を構築するための見立てと話題選択を目的とした演習

支援対象者の部屋の写真をもとに、訪問時に話題にする内容を選択する上での留意点等について、グループワークを実施する。部屋の様子のうち、話題とするのを避けるべき内容は何かという部分に注意する。

発表：ペア1

違和感がある部分(刃物、カーテン等)は指摘しないほうがよい。

その他ペア発表

(12) 導入期～初回面談・個別対応の初期段階～

訪問支援の導入期については、苦手意識

や心理状態、親子関係や保護者の自尊心についても、十分な配慮が求められる。

また、アウトリーチで本人と会えなかった場合は、無理なアプローチはしてはけない。

「さりげない」つまり自然なスタンスのアプローチが求められる。

①事前情報の収集と分析

事前準備が訪問の成否を決める重要な過程であることを意識する!

【情報の収集と分析】

- ◎一般的な相談情報(現状や経緯、主訴等)
- ◎障害及び精神疾患に係る情報(限界設定)
- ◎家族関係、支援経験やその後の経過
- ◎好き嫌い、得意不得意、興味関心(具体的に)
- ◎回避事項(やっではないこと、避けるべきこと等)
- ◎生活実態(起床・就寝時間、習慣、行動等)
- ◎訪問支援に対する同意の有無

この過程で保護者との信頼関係を深めつつ、本人の状態や家庭環境を的確に把握する!

発表1

今回は一旦帰ることにする。

ただし、本人が「自分のせいで帰った」と責任を感じてしまうおそれがあることから、本人に帰る旨を伝え同意してもらう必要がある。

発表2

自分が悪者になる(「挨拶もせずに来ちゃってすみません」など)。

(13) 実際の支援事例から考察する、支援に関する演習

事例割愛(事例を通じた解説)

(14) 実際の支援事例から考察する、支援に関する演習 事例割愛

(事例を通じ、ポイントについて解説)

ペアになり、事例場面の対応方法について検討。


(15) 安定期における効果的な関係性の築き方

◎ 若者から信頼を得て関係性を適正化する「安定期」
 ～効果的な関係性の築き方とその後の支援展開を視野に入れた準備の留意点～

- ① 効果的な関係性の築き方
 「通話を押し付けない」「意外性」「秘密」「発露的な話題」
- ② 支援ツールとしての「勉強」や「遊び」
 「知識伝達からの信頼」「成功体験による自信回復」「楽しみの共有」
- ③ 集団活動に向けた「段階的移行」
 「苦手業務の悪化や見せかけの改善を避ける」「ペースコントロール」
- ④ 「生活場面」や「遊び」の中に組み込んだSST
 「無意識の意識化」「意識させない見立てと支援」
- ⑤ 悪循環を断つための「認知行動療法」
 「苦手の無い世界からの脱却」「セルフコントロール」
- ⑥ 動き出すために「ハードル」を徐々に下げる
 「目標やきっかけを探る」「ストレス要因を減らす」
- ⑦ 安定期における保護者対応
 「出来ることの提示」「中長期的目標の共有」

大事が一番！ストレス等回避可能で無理に押しつけて一緒に歩みだそう！

この段階で本人が抱えている認知的な歪みやどの課題を共有してあげよう！



(16) FDP に基づいた家庭教師方式の学習指導方法

◎ 困難を抱える子ども・若者への学習支援に当たっての前提
 ～FDPの状態を無視した学習指導はトラウマ等を招き将来の自立を阻む要因になり得る～

- ① 不適応行動の背景に配慮した対応の必要性
 ⇒ 関係性の構築を前提とした問題の共有
 ⇒ 背景要因の「追及」ではなくあくまでも「配慮」
 ⇒ 認知やメンタル面での問題、過度にストレスを抱えた状態を想定
- ② 教職員、家族、その他関係者との「つながり」の中で育む
 ⇒ 相談室対応、学校における指導の限界を知る
 ⇒ 一人で「抱え込まず」「投げ出さず」「捕い合い」「皆で支える」
 ⇒ 誰がどのように関わると効果的なのか全体での位置づけを意識する
- ③ 支援員の関わりの最終的な目的は「社会的自立」
 ⇒ 「教科教育」は目的を達成するための「手段」の一つ
 ⇒ 一時的な成績を上げるのではなく学ぶ意欲や力を伸ばす
 ⇒ 単年度の視点ではなく長期的観点から支援内容を考える



(17) アウトリーチと「展開期」における支援事例

事例割愛（事例を通じた解説）
 実際の支援事例を基に、展開期について解説を行った。

(18) 実際の支援事例から考察する、支援に関する演習

事例割愛（事例を通じた解説）
 4 班に分かれ、事例場面の対応方法について検討した。

(19) 関係機関への効果的な誘導方法

◎ 関係機関への効果的な誘導の方法

連携をとるためにはまず相手を深く知る必要がある！

- ① 誘導先の支援機関の詳細を調べる
 ⇒ 支援内容、開館時間、所在地等基本的な施設情報
 ⇒ スタッフの人数や施設内の雰囲気など現場で得られる具体的な情報
 ⇒ 本人のニーズに対する適合性と利用するに当たってのメリット
 ⇒ 不安解消につながるエピソードとデメリットに対する回答
 ⇒ 当該施設の利用者のうち本人が共感できそうな成功事例の情報
- ② 本人の状態に応じた情報の伝え方の工夫によって不安や抵抗感を軽減する
 ⇒ 支援者の似顔絵や写真、施設の外観や相談室の雰囲気等が分かる資料の提供
 ⇒ 本人同意の下、施設のHPやスタッフのブログ、Facebook等の検索・閲覧
 ⇒ スタッフから本人に向けたメールやメッセージカード等を提供
 ⇒ 訪問の際、携帯に電話をもらい事前(に)関係的に)接触を図る
 ⇒ 誘導の際、相談支援以外の目的を付与する(「～のついでに」「～がでたらは使いたい」)
- ③ 必要に応じた読み込んだ対応で確実な誘導を実現する
 ⇒ 代理説明: 本人同意の下、同意している間に電話等で事情説明、申し込みを行う
 ⇒ 随行訪問: 当該施設のスタッフに随行してもらい訪問先で顔合わせを行う
 ⇒ 同行支援: 本人の不安が強い場合は訪問支援員が当該施設まで同行
 ⇒ アフターフォロー: 当該施設のスタッフとの関係性が安定するまで間接的に支援

(19) 実際の支援事例から考察する、支援に関する演習

事例割愛（事例を通じた解説）
 5 班に分かれ、事例場面の対応方法について検討し、発表を行った。

(20) 実際の支援事例から考察する、支援に関する演習

事例割愛（事例を通じた解説）
 5 班に分かれ、事例場面の対応方法について検討し、発表を行う。

(21) 職場への不安感が強い若者に対して支援者ができること

◎ 職場への不安感が強い若者に対して支援者ができること
 ～30分～1時間程度の事前準備を行った上で心にも余裕をみながら支援内容を伝える～

事前準備: 事前に学んだリシミュレーションを行うことで不安感を抑え現場でのアドバンテージを作る！

各職場だけでなく各現場で異なる価値観や慣習等「文化」に着眼した助言も効果的！



事例割愛（事例を通じた解説）
 実際の支援事例を基に、展開期について解説を行った。



講義風景 (9月3日)



講義風景 (9月3日)



講義風景 (9月4日)



講義風景 (9月4日)

9月5日(金):「アウトリーチの技法と求められる支援」

特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 河野 久忠 氏

概要

(1) ひきこもりの支援の方向性

医療的と自立・就労支援では、方向性が異なる。方向性を考えるためには、初期の見立てはとても重要であり、ひきこもりの高齢化・長期化のスパイラスを理解した上で対応することが求められる。

(2) ひきこもりの初期の受容について

ひきこもりについての受容については、本人の状態に併せなくてはならない。

(3) インテーク・導入期で重要すべき事柄

初期の見立ての重要性

- ☆ ひきこもり状況の家族関係を理解したうえで、現状を客観的に捉える家族相談が必要。
- ☆ 状況に応じた支援計画を提案
- ☆ 家族の現状を客観的に評価する

公的支援
民間支援
フリーサポート
自助支援

特定非営利活動法人 青少年自立援助センター